



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

## 掲示板法話

### いつか死なねばならない されど

### 死はある日突然やってくる



「秋なのに暑いね」と言っている間に、もう十一月。地球の温暖化が進み、今年

は世界中で大洪水(中国、ドイツ等)や山火事(米国、ブラジル、トルコ等)が頻発、北極圏のグリーンランドで初めて雨が降るなどの異常現象が起りました。

現代の文明が温室効果ガスを増加させて、人類の生存の脅威となりつつあります。そしてコロナ禍の中で、ワクチンの手当てでもできない途上国が沢山あり、世界は分断状況にあります。デルタ株の流入、感染爆発で第五波の痛手を被った日本としても、ワクチンの3回目の接種とともに、途上国のワクチン接種への支援をWHO(世界保健機関)などにもっと働きかけてほしいと思うのですが、多くは海外支援にはあまり関心がないのが不思議で……?

でも、わが命が明日終わるかもしれないということになれば、地球の未来や環境問題など構ってはおけません。新型コロナウイルスの世界を巻き込んだ感染の恐怖は、我々に等しくこの厳しい問いを突き付けたのです。「あなた、このまま、命終わってもいいのか?」という大問題です。

「いつか、死なねばならない。されど、その「いつか」はある日突然やってくる」。

これは、どこかの掲示板の言葉ですが、胸にぐつとききました。生のに憧れ、執着する私たちへの厳しい最後通告ですね。わが現在地も知らずに、死を「他人事、他人事」とやり過す煩惱具足の身が本場に抛り所とするのできる世界が「正信念仏偈」に示されています。

能発一年喜愛心 不断煩惱得涅槃  
凡聖逆誘齊回入 如衆水入皆一味  
(仏によつて救われてゆく身の幸せを)喜ぶ心が発れば、迷いの身のままで煩惱を断つことなく(この命終わるとき)必ず仏に成ることができ。凡夫も聖者も佛法をそしめるような極悪人も、(回心すれば)齊しく涅槃の世界に入る。様々な川の流れ(衆水)が海に入ると一味の海水になるのと同じである、という意味です。

(意識：豊原大成著「浄土真宗・日常勤行聖典」自照社、に依る)  
厳しい修行をして煩惱を断ち切ることなく、我々凡夫も聖人も極悪人も、お念仏申さずにおれぬ心が起れば、皆同

## ☆行事ご案内☆

### ◇報恩講 講師 藤 大慶先生 (京都府)

11月2日午後1時半 夜席はなし

※お非時はお持ち帰り弁当。希望者は午前中12時頃までに寺まで受け取りに来て下さい。家族の複数希望もOK。寺でのお召し上がりも可。10/25まで電話での受付可

11月3日午前10時 世話方や行事は弁当用意、他遠方の方もお弁当可。遠慮なく電話でお申込み下さい

### トライアングル来演 10月20日(水)午後1時

急遽ギター・マンドリン・歌手の三人と共に、懐メロ等を皆さんと共に歌います。参加費無料、誰でも参加自由  
秋勤進 11月23日(祝)午前8時より行事、総代、住職が手分けして巡回。ご協力をお願いします。

「善正寺門徒作品」報恩講で本堂南窓際に展示、布絵の力作

お内仏報恩講 12月4日(土)午前10時半庫裏で弁当用意

5時の鐘撞き夕方5時は地域の子供達に鐘撞き開放

善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、一年分の寺報閲覧可、毎日更新ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評、開設以来36万訪問、コメント・悩み相談急増中

一縁会テレホン法話059・354・1454へお電話を  
新納骨堂：後継者の無い方お墓でお困りの方、寺へ相談を  
法事場所でお困り方：日時を寺へ相談下さい。本堂使用可

じく仏様の世界(涅槃)の仲間と成るとはなんと驚くべきことでしょうか。如来さまの大慈悲心は、海のように広く深いのですよ、と親鸞聖人は慚愧のお心をもつてお導き下さいます。むなく終わる身が、「唯念仏のみぞまこと」の世界に導かれることよつて「この命頂いてよかった」と本当の生まれ甲斐を再発見できるのですね。

報恩講は「親鸞さま、ありがとう」の大切な法要です。お正信偈を唱和しつつ、迷いの世界から二度と迷うことなき道に歩みを進めたいと思います。



## ☆ 写真アラカルト ☆



# 坊守スケッチ

## 内助の功と家族

今年のノーベル物理学賞に、アメリカ国籍の真鍋淑郎先生(90)が選ばれました。その記者会見を見て感激したことがあります。

「私がノーベル賞を取れたのは妻のおかげです。私の健康を気遣い、栄養価のある食べ物を作ってくれました。外出時の運転手役も妻に任せました」

一方、信子夫人(81)も「夫が研究に没頭できるように、家事は勿論それ以外の事も全て私が担当しました」と、日本版『内助の功』を披露されました。まさしく夫婦二人三脚で勝ち得たノーベル賞であったと言っても、過言ではありません。

我が家の場合も、住職は兼業していましたが、常に綱渡りの状態でした。私も必要に迫られたらすぐに間に合うように早くから得度をして、先代住職亡き後代理を勤めました。大学と葬儀が重なる時は、途中抜けした住職を駅で待ち構え、葬儀後再び駅へ送りました。その後のお勤めは、息子が私が交替。スマホも無い時代でしたので、急な連絡をするのも一苦労でした。

特に兼業しているお寺は、家族が一丸となって協力体制を組まなければ回っていきません。言い換えれば、兼業しているおかげで、お互いに助け合う家族の和が生まれたのだと思います。今年になって殆どの公務を卒業した住職ですが、現在は兼業する若院を



少しでも助けようと、法務に励んでいます。若嫁も最近得度をして、孫が成長するまで若院を助け、私達と同じ道を辿るのかもしれない。五百年以上続く善正寺ですが、代々の住職家族もこのように受け継がれたのでしょうか。ところで『内助の功の鑑』と言えば、宗祖親鸞聖人の妻・恵信尼様ではないでしょうか？親鸞聖人と恵信尼様は、晩年京都と越後に離れてお住まいでしたが、恵信尼様は親鸞様の経済的基盤をしっかりと支える為の別居生活でした。親鸞聖人が晩年『教行信証』の著述に専念できたのも、恵信尼様のおかげです。お念仏で結ばれたご夫婦の固い絆とお念仏の教えが、八百年を経ても私達の元に届いているのです。

### 俳壇

スキの穂客一人待つ無人駅 釋妙水  
 乗り遅れバスの背を追う秋の雨  
 靴底やはさみ踏む栗飛び出せり 釋榮邦  
 秋草は母の形見の帯の柄 釋榮邦  
 稗栗の裂け目に覗く三姉妹  
 朝霧に浮かぶ鈴鹿峯花野道 釋清風  
 行く秋や孫と語らふ刻愛し  
 霧の朝月光我を照らしけり  
 連用の日記買ひては歳数ふ  
 新涼やCMの間の風呂掃除 釋秀龍  
 秋日差すヒノキベッドの黄金色  
 妹の寝顔よ秋の青空よ



### 若坊守の子育て日記 No.83

三重県の緊急事態宣言は九月末に解除されましたが、まだ油断できない状況が続いています。我が家の子どもたちの小学校もようやくオンライン授業から通常に戻り、ひとまず良かったと思います。

久しぶりの学校ではいくつかわ化したことがあったそうです。登校後はまず手洗いをしてから教室に入る、消毒液の数が増えた等です。五月から十月に延期された運動会は更に十一月に延期、オンライン観戦になりました。画面越しに我が子を発見できるか不安ですが、初の試みなので楽しみます。

四年生の長男のクラスでは後期の学級委員と代表委員を選出したそうです。みんな、推薦でいやいや引き受けるのかなと思いきや、立候補がたくさんあって投票で決まったそうです。長男も学級委員に立候補して当選したそうで、子どもたちの溢れる「やる気」に嬉しくなりました。

芸術、スポーツ、読書などたくさんある「〇〇の秋」。コロナ禍で思い通りにならないことも多いですが、小さくても心が満たされることを見つけたいですね。



### 謹んでお悔やみ申し上げます

大塚美知子様(四日市市みゆきヶ丘)9月15日・行年79歳。

◇報恩講お非時(11月2日)は、今年もお持ち帰り弁当です。ご希望の方は午前中に受け取りに来て頂くか、寺でお召し上がり下さい。まだ追加できますので家族で複数ご希望の方や他所の方は10月25日までにお申し込み下さい。電話でも受け付けます。

◇秋勸進11月23日(祝)午前8時より行事さん、総代さん・住職が手分けして巡回します。ご協力よろしくお願ひします。

◇『お内仏報恩講』12月4日(土)午前10時半

### カンパありがとう

高木様、KA様、AK様、HM様、他お志やお仏飯新米を頂戴。

### お知らせ

※10月20日(水)午後1時より「トライアングル」をお迎えして、本堂で歌声広場を開催。ギター・マンドリン・歌手と共に皆様と楽しく歌います。参加費無料、どなたでもお気軽にご参加下さい。

### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」335号をお届けします。◇コロナ感染防止に明け暮れる間に人間関係を閉ざし、唯延命の日常に明け暮れるとは如何なものか？◇死が迫る身を自覚しつつ念仏相続怠りなく往生浄土の人生を共々歩みたい。合掌。

秋風と共にコロナ感染者数も減少しています。東京オリンピック、パラリンピック終了時には日本の行方に暗雲が立ち込めていました。「何故急に収束に向かったのか」と皆不思議がります。9月末で緊急事態宣言が解除されましたが油断は禁物。シンガポールではワクチン効果が薄まり、ブレークスルー感染が拡大中。日本でも第6次感染の波を警戒せねばなりません。しばしの開放感から再び感染が拡大しないようにご用心下さい。二年続きのコロナ禍でお寺の行事も中止や縮小を迫られました。善正寺も昨年春の永代経は中止しましたが、それ以外は短縮版でお勤めしました。行事が近づくたびに、「以前のように参詣者は集まらないのではないかと」とか「人々が法要の簡素化に慣れて今後もその傾向が続くのではないかと」と懸念しました。11月2・3日の報恩講は例年通りお勤めします。しりしり手作りお非時の代わりに松花堂風弁当をお持ち帰り頂くか、寺で召し上がるか、ご自由にお選び下さい。コロナによつて一般社会の状況も様変わりしました。テレワークが一般的になり、子供でもオンライン授業に慣れ、ネットのこのQ.Mで大勢の人と繋がる事が普及しました。対面のような温かさは感じられませんが、時間や交通費も節約できて便利なことには間違いないです。コロナをまっさかのりに寺も新しい教化伝道方法を模索してまいります。10月20日水ノ時のオンラインアゲんによる歌声本場と11月2日3日の報恩講へのご参詣を心よりお待ち申し上げます。

合掌

令和三年十一月

善正寺坊守 拝